

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866
 住所 川崎市川崎区水江町5番地1
 氏名 JFEプラリソース株式会社
 代表取締役社長 田村 望 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEプラリソース株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町5番地1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	R	サービス業 (他に分類されないもの)
	中分類	88	廃棄物処理業
主たる事業 の内容	容器包装プラスチックの再商品化リサイクル		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		6,176 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	京浜事業部
		所在地	川崎市川崎区水江町5番地1
	電話番号		044-299-5193
	FAX番号		044-299-5328
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度 平成27年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://www.jfe-plr.co.jp/environment/index.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 15,123 t-CO ₂ (調) 15,123	(実) 15,139 t-CO ₂ (調) 14,811	(実) 14,738 t-CO ₂ (調) 14,381	(実) 14,421 t-CO ₂ (調) 14,125	(実) 14,669 t-CO ₂
削減率		(実) -0.1 % (調) 2.1 %	(実) 2.5 % (調) 4.9 %	(実) 4.6 % (調) 6.6 %	(実) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	原料バール投入量		単位	t-CO ₂ /トン	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.2456	0.2401	0.2283	0.2211	0.2382
削減率		2.2 %	7.0 %	10.0 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	処理量が増大したことからCO ₂ 排出量は0.1%増大したが、操業の集中化やこまめな節電等の省エネ活動により、原単位については2.2%削減できた。
第2年度	処理量は4.8%増大したが、操業の集中化やこまめな節電等の省エネ活動により、CO ₂ 排出量は2.5%、原単位は7.0%削減できた。
第3年度	処理量が10.2%増大したが、操業の集中化・連続運転化およびこまめな節電等の省エネ活動により、CO ₂ 排出量は4.6%、原単位は10.0%削減できた。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p><全社目標> 2015年度に2012年度比で温室効果ガス排出量原単位を3%削減する目標に対し、10.0%削減した。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 ○主要設備の保全管理 ○事務所等の管理 ○フォークリフト等の燃料削減
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム(EA21)を導入、認証を取得している。中間審査を受け、適合の判定を得た。 ○主要設備の保全管理 設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。NFボード成型機稼働期間を集中し、立ち上げ、立ち下げ時のエネルギーロスの低減を図った。 ○環境教育 EA21のガイドラインが2009年度版になり、グリーン購入、全社員への周知が項目として加わったこと、年度目標値の変更点他を教育した。 ○原料・製品等の横持ちを減らし、フォークリフト等の燃料を削減した。
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム(EA21)を導入、認証を取得している。更新審査を受け、適合の判定を得て更新された。 ○主要設備の保全管理 設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。NFボード成型は9月～3月に期間を集中し、立ち上げ、立ち下げ時のエネルギーロスの低減を図った。 ○環境教育 2009年度版EA21のガイドラインに従い、追加項目のグリーン購入を推進、全社員への周知として、年度目標値他を教育した。 ○原料・製品等の横持ちを減らし、フォークリフト等の燃料を削減を推進した。
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 全社環境管理組織を整備し、環境マネジメントシステム(EA21)を導入、認証を取得している。中間審査を受け、適合の判定を得た。 ○主要設備の保全管理 設定した主要設備の管理基準に従い、電流値・温度・圧力・能率等を適性に管理した。NFボード成型機稼働期間を集中し、立ち上げ、立ち下げ時のエネルギーロスの低減を図った。 ○環境教育 2009年度版EA21のガイドラインに従い、追加項目のグリーン購入を推進、全社員への周知として、年度目標値他を教育した。 ○原料・製品等の横持ちを減らし、フォークリフト等の燃料を削減した。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO₂削減量目標： 2.3千t-CO₂ ○川崎メカニズム認証制度の認証取得予定 ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量目標：18.0千t CO₂削減量目標：49.9千t-CO₂
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO₂削減量： 590t-CO₂ ○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：328t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量：18.8千t CO₂削減量：52.0千t-CO₂
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO₂削減量： 656t-CO₂ ○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：357t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量：19.4千t CO₂削減量：53.7千t-CO₂
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○低CO₂川崎ブランドに選定 製品名：再生プラスチックコンクリート型枠「NFボード®」 年間のCO₂削減量： 535t-CO₂ ○川崎メカニズム認証取得、認証された域外貢献量：290t-CO₂ ○JFEスチール東日本製鉄所での廃プラ利用促進によるCO₂削減 年間の廃プラ利用量：21.3千t CO₂削減量：59.0千t-CO₂ ○グリーン電力証書購入：10,000kwh CO₂削減量：5.7t-CO₂

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○エコアクション21による環境教育の実施、活動の推進 ○廃棄物の減量化、有効利用の推進 ○川崎エコドライブ宣言に登録 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）への参加 ○グリーン購入の推進
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エコアクション21による環境教育を実施 ○廃棄物の有価燃料化を促進し、減量化を推進 ○川崎エコドライブ宣言に従い、関係貨物運送事業者全29社に環境配慮行動の要請を行った。 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）へ参加、JFEスチールと協力し温室効果ガス排出量の削減を推進。 ○文房具のグリーン購入を推進、グリーン購入比率59%を達成。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エコアクション21の実績、目標を周知する環境教育を実施 ○廃棄物の有価燃料化を促進し、減量化を推進 ○川崎エコドライブ宣言に従い、関係貨物運送事業者全29社に環境配慮行動の要請を実施。 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）へ参加、JFEスチールと協力し温室効果ガス排出量の削減を推進。 ○文房具のグリーン購入を推進、グリーン購入比率76%を達成。
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エコアクション21の実績、目標を周知する環境教育を実施 ○廃棄物の有価燃料化を促進し、減量化を推進 ○川崎エコドライブ宣言に従い、関係貨物運送事業者全29社に環境配慮行動の要請を実施。 ○川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）へ参加、JFEスチールと協力し温室効果ガス排出量の削減を推進。 ○文房具のグリーン購入を推進、グリーン購入比率82%を達成。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	16,371	t-CO ₂
(調)	16,075	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
京浜事業部	川崎市水江町5番地1	8816	ごみ処分量	16,371 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--